



CRÉDIT AGRICOLE S.A.

2011年2月24日パリ

2010年度業績:

顧客志向と経済への資金供給により好業績を達成。

バーゼルⅢの枠組みの下で、追加増資は不要。

本書は、英語による Crédit Agricole SA 2010 年度年次報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

クレディ・アグリコル・グループ*

2010年度

純利益 - グループ帰属分: 36億ユーロ、31.5%増加

営業総利益: 134億ユーロ、14.6%増加

営業利益: 82億ユーロ、57.9%増加

ティア 1 レシオ: 10.3%

* 地域銀行、地方金庫、クレディ・アグリコル SA 及びその子会社

クレディ・アグリコル S.A.

2010年度

純利益グループ帰属分: 12億6,300万ユーロ、12.3%増加

営業総利益: 69億4,200万ユーロ、20.5%増加

リスク関連費用: 37億7,700万ユーロ、19.4%減少

ティア1 レシオ: 10.6% 、内コア・ティア1: 8.4%

2010年第4四半期

銀行業務純利益: 前年同期比8.1%増加

営業総利益: 前年同期比8.1%増加

リスク関連費用: 前年同期比41.8%減少

純利益グループ帰属分: -3億2,800万ユーロ

クレディ・アグリコル・グループ

クレディ・アグリコル・グループ全体で、前年比31.5%増の36億ユーロの純利益グループ帰属分を達成しました。臨時的な事項に関する経営上の決定や将来に備えて健全な基盤を整えるために採用された対策による影響が大きかったにもかかわらず、この業績が達成されたことは、注目すべきであるといえます。それらの決定や対策とは、インテサ・サンパオロ(Intesa Sanpaolo)の持ち分を会計処理上再分類したことや、ギリシャの子会社エンポリキの営業権減損費用、事業部門の幾つかの子会社の経営上の統合などです。

2010年の当グループの事業は、リテール・バンキングネットワークと関連事業部門(保険、資産運用、専門金融サービス)全般に渡り、堅調な事業推進力が反映されました。今年度の業績結果は、クレディ・アグリコル・グループのビジネス・モデルの妥当性を裏付けています。これは当グループのプロジェクトが発表された時点で再確認されました。当ビジネス・モデルは、リテール・バンキングとそれに関連する専門事業の優位性に基づいて構築されています。それによって、リテール・バンキングのネットワークが事業部門の銀行業務純利益の60%以上を、フランスの支店ネットワークだけでも同純利益の50%以上を生み出しているのです。

この収益の伸びに加えて、経常費用の抑制とリスク関連費用の大幅な低下によって、営業利益は58%増のほぼ82億ユーロに達しました。これは当グループの継続事業の強さを示すものです。

2010年12月31日現在の貸付ローン残高は4,574億ユーロであり、当グループは、フランス経済に資金を供給する上で毎年のように首位的立場を維持しています。個人、スモール・ビジネス(中小企業)、或いは法人顧客を含む、その数5,400万のクライアントの皆様の事業を支える責務を当グループは果たしています。

*

* *

クレディ・アグリコルS.A.

2011年2月23日に、2010年12月31日を期末とする1年間の業績を見直し、決算報告を承認するためにジャンマリ・サンデルを議長とするクレディ・アグリコルS.A.の取締役会が開かれました。取締役会は、以前にフランスの プルデンシャル監督機構 (Prudential Supervision Authority: ACP) に提出された自己資本に対する新規の会計処理方法の適用も承認致しました。

クレディ・アグリコルS.A.の会長であるジャンマリ・サンデル及びCEOであるジャンポール・シフレは、これらの自己資本に関する会計処理方法が当グループの財務のストラクチャーの本質的な堅実性を裏付けていると認識しています。

クレディ・アグリコルS.A.の業績結果の発表で、シフレは、経済危機からの脱出、幾つかの欧州国政府のソルベンシー(支払い能力)問題、現在進められている銀行の自己資本に関するレギュレーションの改革などの面において、2010年が不確実性の一年であったと指摘しました。

クレディ・アグリコルS.A.の2010年度の業績結果は、堅調な事業推進力を反映しており、特にフランスのリテール・バンキングに加えて、支店ネットワークに従事する事業部門の子会社の合理化の継続とリスク関連費用の減少傾向を反映しています。

国際リテール・バンキングと法人営業及び投資銀行部門(CA-CIB)を含めた、全ての事業部門における業績の力強い伸びが推進力となり、銀行業務純利益は、同一条件及び一定の為替レートのもとで7.8%増加しました。この業績は、費用が抑えられる中で達成されたものです。エバーグリーン・プロジェクト(本社移転プロジェクト)、ニース・プロジェクト(NICE project)、シャルトル・データ・センター(Chartres data centre)のような将来利益を生み出す主要なプロジェクトのコストを含め、費用は3.9%増加しました。また業績は、事業部門の統合が成果を上げたことによっても達せられました。ソフィンコ/フィナレフ(Sofinco/Finaref)と、クレディ・アグリコル・リーシング(Crédit Agricole Leasing)/ユーロファクター(Eurofactor)の合併、アムンディの創設の成功、クレディ・アグリコル・アシュアランス(Crédit Agricole Assurances)の強化などが挙げられます。

全体的には、営業総利益は同一条件のもとで16.1%増加しました。これは当グループの着実な組織的成長を反映しており、地域銀行のグループ総利益も16.4%と目覚ましく増加したことによっても裏付けられました。

リスク関連費用が著しく減少(19.4%低下)したことも2010年のハイライトです。リスク関連費用は、着実に四半期ごとに低下しました。この低下には全ての事業部門が寄与しており、なかでもCA-CIBは顕著に低下し、それよりも減少率は小さかったものの支店ネットワーク(LCL、国際リテール・バンキング)及び消費者金融部門でもリスク関連費用は低下しました。

更に、2010年の業績結果には幾つかの極めて重要な項目が組み込まれています。但し、これらは臨時的項目であり、以下の項目を含みます。インテサ・サンパオロの株式持ち分の一部売却の影響額(-1億7,100万ユーロ)と残りの持ち分を非連結化し、著しい影響を取り除きました(-12億4000万ユーロ)。また、エンポリキの営業権の減損費用が4億1,800万ユーロ計上されました。また、4,000万ユーロ以上のプラスの影響を生んだ生命保険の「資産移転譲渡税(exit tax)」を認識したことも、項目のひとつです。

自己資本の新規会計処理

取締役会は、新しいレギュレーションに沿って、自己資本比率の計算に関する新規会計処理方法を承認しました。

-協同組織形態の銀行は、現在上場株式及び非上場株式として保有しているグループ内持ち分が新規会計処理方法の対象となっているため、今後クレディ・アグリコルS.A.が保有する地域銀行の持ち分をティア1から50%、ティア2から50%控除されることはありませんが、加重した後でリスク加重資産の合計に加えられることになります。こうした新しい会計処理方法は、2010年12月31日付で有効になりました。従って12月31日現在の自己資本比率はこの基準に基づいて計算されます。この会計処理方法の変更が与える影響は、コア・ティア1比率で約-120ベース・ポイント、ティア1比率で約+40ベース・ポイント、全体的な比率で約+200ベース・ポイントとなります。

-新バーゼルⅢの要件を満たすために、株主前払金や劣後債券(T3CJ)などはティア1普通株式株主資本の新規コア・ティア1の計算には計上されません。これらの代わりになる方法の中で、フランスのプルデンシャル監督機構は“変換保証”(switch guarantees)と呼ばれるグループ取引の原則を承認しました。これはクレディ・アグリコルS.A.の地域銀行への投資資本の持ち分法による価額が減少した場合のリスクを、各地域銀行が保証する形で、カバーするよう設計されています。その結果、クレディ・アグリコルS.A.がこれらの証券を保有するための自己資本条件は、保証人(地域銀行)に移転されることになります。同様な変換メカニズムが保険分野でも設定される予定です(Insurance switch)。これによってクレディ・アグリコル・アシュアランスの資本部分の下落の全て或いは一部が保証されることになります。

この解決法は、希薄化するものでも、クレディ・アグリコル・グループの支払い能力(ソルベンシー)のポジションを変えるものでもなく、当グループの内部の柔軟性を活かすものであり、2011年末までには実施されます。これによりクレディ・アグリコルS.A.は、追加増資を行うことなくバーゼルⅢの要件を満たすことになります。

*

* *

取締役会は、2011年5月18日の年次総会で、1株当たり0.45ユーロの配当を株主が承認するように提案する予定です。配当の支払いについては2つのオプションが用意されています。

- 現金での全額支払い 若しくは
- 株式での全額支払い

取締役会では、クレディ・アグリコルS.A.の最大株主であるS.A.S.Rue la Boétie は、新株による配当支払いのオプションを強く支持していると表明し、次の年次総会で承認されることを条件として、新株による配当支払いが行われるであろうと示唆しました。

決算スケジュール

2011年3月17日	クレディ・アグリコルS.A.中期経営発表
2011年5月13日	2011年度第1四半期決算発表
2011年5月18日	年次総会
2011年5月26日	権利落ち日（配当支払い日: 2011年6月20日）
2011年8月25日	2011年度第2四半期及び上半期決算発表
2011 年 11 月 10 日	2011 年度第 3 四半期決算発表

クレディ・アグリコル・グループ S.A. 連結結果

(in millions of euros)	Q4-10	Q4-09	Change Q4/Q4	2010	2009	Change 2010/2009
Net banking income	4,859	4,494	+8.1%	20,129	17,942	+ 12.2%
Operating expenses	(3,422)	(3,165)	+8.1%	(13,187)	(12,182)	+8.2%
Gross operating income	1,437	1,329	+8.1%	6,942	5,760	+20.5%
Cost of risk	(750)	(1,288)	(41.8%)	(3,777)	(4,689)	(19.4%)
Operating income	687	41	nm	3,165	1,071	x3.0
Equity affiliates	(1,012)	208	nm	65	847	(92.3%)
Net income on other assets and changes in the value of goodwill	(36)	14	nm	(622)	(419)	+48.4%
Tax	144	222	(35.1%)	(877)	(211)	x4.2
Net income (after tax) from discontinued activities	12	58	(79.3%)	21	158	nm
Net income	(205)	543	nm	1,752	1,446	+21.2%
Net income – Group share	(328)	433	nm	1,263	1,125	+12.3%

2010年のクレディ・アグリコル・グループS.A.の銀行業務純利益は、前年同期比12.2%増の201億ユーロに達しました。また、同一条件及び一定の為替レートでは、7.8%の増加となりました。営業費用は同一条件及び一定為替レートでは3.9%の上昇に留まりましたが、132億ユーロの営業費用を差し引いた営業総利益は69億ユーロに達しました。同利益は、2010年度では20.5%増加し、同一条件及び一定為替レートでは16.1%増となりました。

営業総利益のこの堅調な増加は、事業部門のリストラチャリングによる費用の削減によって可能になったのであり、主にリテール・バンキングの業績結果が優れていたことによるものです。

「関連会社の利益」に含まれる地域銀行によるクレディ・アグリコルS.A.の純利益への寄与は、顧客業務による銀行業務純利益が6.3%増加したため、堅調な伸びを見せました。一方、コスト比率は50.2%に低下しました(NICEプロジェクトの費用を除きます)。LCLは、その事業が長期間に渡り回復しており、2010年度は5.5%の着実な伸びを達成しました。銀行業務純利益では2.5%の伸びを見せ、一般の営業費用は厳しく抑えられました(僅か0.9%の増加に留まり、この増加率は競争力プランの目標値を下回ることができました)。国際リテール・バンキングでは、エンポリキの業績結果においてはその改善の効果を明確に示してきており、営業総利益が2009年度の水準の3倍となりました。エンポリキを除く、国際リテール・バンキングの営業総利益は、8億5,900万ユーロでした。

専門金融サービスの事業部門もまた着実な伸びを達成しました。専門金融サービスでは、営業総利益は前年同期比12.0%増の22億ユーロに達しました。これは主に、消費者金融事業の健全な伸びに支えられたものです。資産運用事業も良好な業績を達成しました。保険事業では、事業運営の効率化が更に高められ、営業総利益が32.5%の増加となりました。資産運用では、アムンディ(Amundi)の統合が成功し、リストラチャリング費用前で、17.4%増の6億9,100万ユーロに達しました。

CA-CIBでは、事業ごとにまちまちな業績結果となりました。ストラクチャード・ファイナンスが優れた業績を達成(ファイナンス事業は56.0%増加)したものの、2010年度中は厳しいマーケット状況が続きました(資本市場及び投資銀行部門の営業総利益は65.3%減少しました)。その一方で、非継続事業の影響が顕著に低下(67.2%低下)しました。

各事業部門の堅調な業績と合理化に向けた努力による費用抑制によって、クレディ・アグリコルS.A.のコスト比率は、前年同期比で2.4%減の65.5%となりました。

2010 年期首から始まった**リスク関連費用**の減少は、期末には 19.4%まで低下しました。この低下は主に CA-CIB の継続事業によるところ大きく、同部門のリスク関連費用は 72.6%低下しました。LCL のリスク関連費用も同様に著しく減少しました(17.4%)。国際リテール・バンキング(エンポリキを除く)と専門金融サービスも、前述の部門程ではありませんが、リスク関連費用が低下しており、それぞれ 2.4%、1.7%低下しました。エンポリキでは、2010 年度のリスク関連費用は 10 億 2,200 万ユーロと高水準でしたが、経過年数の長いローンに集中していました。

クレディ・アグリコル SA 全体では、2010 年のリスク関連費用は 38 億ユーロとなり、1 年前の平均残高の 104 ポイント・ベース・ポイントに対し、平均残高の 77 ベース・ポイントでした。問題のあるローンのカバー・レシオは 65.8%で、引当金を除いた場合 50.3%となりました。

関連会社の純利益は、インテサ・サンパオロの株式持ち分を連結から除外したマイナス影響分 12 億 4000 万ユーロを含めて、6,500 万ユーロとなりました。このマイナス影響分により、地域銀行の持ち分の純利益増加分、前年比 16.4%増の 9 億 5,700 万ユーロが、一部相殺される結果となりました。

その他の資産及び営業権価額の変動からの純損失である 6 億 2,200 万ユーロには、エンポリキの営業権の減損費用 4 億 1,800 万ユーロが含まれています。また、インテサ・サンパオロ株式の売却によるマイナス影響分 1 億 7,100 万ユーロも含まれています。

8 億 7,700 万ユーロの**法人税**引後、また保険の資産移転譲渡税(exit tax)に対する新基準の会計処理に 4 億ユーロを上回るプラス影響額を考慮に入れた後のクレディ・アグリコル SA **純利益グループ帰属分**は 2009 年比 12.3%増加の 12 億 6,300 万ユーロに達しました。

2010 年第 4 四半期の純利益グループ帰属分は、-3 億 2,800 万ユーロに達しました。営業総利益は 14 億ユーロで、2009 年第 4 四半期比 8.1%の増加となりました。これは各事業部門の事業及び経営の安定した伸びと、リスク関連費用 41.8%の減少を反映しています。業績は、インテサ・サンパオロの株式持ち分の連結除外部分による損失額が悪影響を及ぼす結果となりました。インテサ・サンパオロは、保険の exit tax に対する新基準の会計処理によるプラスの影響額によって僅かだけ相殺されました。

財務状況

2010 年の第 4 四半期は、2 つの主要因がクレディ・アグリコル SA のリスク加重資産、自己資本、及びクレジット・レシオに対し著しい影響を与えました。それらは、地域銀行における持ち分の会計処理方法の変更、及びインテサ・サンパオロの株式持ち分の連結除外です。

2010 年 12 月 31 日現在、クレディ・アグリコル SA の CRD リスク加重資産は、3,720 億ユーロに達し、2009 年 9 月比で 13.7%の、2010 年 9 月比で 13.9%の増加となりました。この大幅な増加は、地域銀行のクレディ・アグリコルの株式持ち分の会計処理基準の変更によるものです。2010 年第 4 四半期に初めて、この投資が持ち分から控除されずに、加重された後のリスク加重資産の合計に加えられました。この会計基準の変更による影響で、リスク加重資産が更に 463 億ユーロ増えましたが、もしそれを除いたならば、CRD リスク加重資産は 2010 年 9 月、2009 年 12 月時に比べてより安定した数字になっていたでしょう。更に、インテサ・サンパオロの持ち分株式の売却により、2010 年度末の合計リスク加重資産が 36 億ユーロ増加しました。

2010 年 12 月 31 日現在のクレディ・アグリコル SA のティア 1 キャピタルは、控除前が 880 億ユーロに達し、2009 年 12 月 31 日現在に対し 2.3%の増加となりました。

全体では、2010 年 12 月 31 日の CRD レシオは、同年 9 月 30 日現在の 10.3%に対し、12.8%でした。このうち、+2.0%は地域銀行の持ち分株式の新規会計基準変更によるものであり、+0.3%はインテサ・サンパオロの株式持ち分の連結除外、+0.2%が第 4 四半期中の増加によるものです。ティア 1 レシオは 2010 年 9 月 30 日現在の 10.0%から 2010 年 12 月 31 日現在の 10.6%へと上昇しました。前述の 3 つの主要因による影響はそれぞれ +0.4%、-0.1%、+0.3%でした。コア・ティア 1 レシオは 9 月 30 日現在の 9.8%に対して、8.4%となりました。この低下は、上記の期間の 2 つの大

きな会計基準の変更によるものです。

2010年度末のクレディ・アグリコル・グループのリスク加重資産は、2009年12月31日現在比4.3%増の5億6,200万ユーロとなりました。2010年12月31日現在、CRDレシオは11.7%、ティア1レシオが10.3%、コア・ティア1レシオが8.8%でした。旧基準(unfloored)の場合、これらのレシオはそれぞれ13.7%、11.7%、10.1%になります。

増資に頼ることなく、新バーゼルIIIに備えるために、クレディ・アグリコルSAは、株主の前払い金及び劣後債(T3CJ)の債務と保証との変更の準備を進めています。2011年には、これらの証券は償還され、いわゆる変更保証となり、55億ユーロに相当するティア1キャピタルが地域銀行から供給されることになります。

リファイナンスの面では、当グループは合計250億ユーロの2010年のプログラムのうち112%を完了しました。また、その平均償還年限条件は、2009年の5.1年から2010年の6.9年に大幅に延長されました。調達資金は、その通貨においても上手く分散されています。更に、2つの新規MTNプログラムがローンチされました。一つはUSMTNで、もう一つは豪ドル建のプログラムです。見通しとしては、2011年のプログラムは270億ユーロで予定され、この内訳はマーケットで調達される220億ユーロと、当グループのネットワークを通して調達される50億となります。2011年のプログラムは2011年の最初の5週間で100億ユーロが調達され、良好なスタートを切りました。2011年1月末現在で、今年度のプログラムの37%が既に完了しています。クレディ・アグリコル・グループは、2010年12月31日現在で1,500億ユーロに達する流動性準備金を保有しています。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

1.1. - クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q4-10	Change Q4/Q4	2010	Change 2010/2009
Net income accounted for at equity (at about 25%)	211	+22.2%	824	+22.6%
Change in share of reserves	-	nm	133	(3.6 %)
Income from equity affiliates	211	+22.2%	957	+16.4%
Tax*	-	-	-	nm
Net income – Group share	211	+22.2%	957	+31.1%

*2009年まで地域銀行から受取った配当の税効果

1.2. - LCL

(in millions of euros)	Q4-10	Change Q4/Q4	2010	Change 2010/2009
Net banking income	1,023	+1.1%	3,945	+2.5%
Operating expenses	(648)	(1.9%)	(2,575)	+0.9%
Gross operating income	375	+6.6%	1,370	+5.5%
Cost of risk	(90)	(34.8%)	(359)	(17.4%)
Operating income	285	+33.6%	1,011	+17.1%
Net income – Group share	188	+32.5%	671	+16.8%

2. 国際リテール・バンキング

注：下記の数字は、2010年の第3四半期にBIMRを、2010年の第1四半期にクレディ・ウルグアイ・バンコ (Crédit Uruguay Banco) を非継続事業に加えたことによる影響額を修正表示してあります。

2010年第4四半期の国際リテール・バンキングの業績は、支店ネットワークの経営改善を反映しています。特にエンポリキにおいて、経営改善が見られました。その一方で、ギリシアの経済状況の悪化は、引き続き経営状況に悪影響を与えました。

2010年度の当事業部門の純利益グループ帰属分は、第4四半期の9,000万ユーロの損失を含めて、9億2,800万ユーロの損失を計上しました。2010年度の純利益は、エンポリキの営業権減損費用を含むエンポリキの損失額12億ユーロ(第4四半期の損失額は1億1,100万ユーロ)の影響を受けました。

(in millions of euros)	Q4-10	Change Q4/Q4	2010	Change 2010/2009	Change 2010/2009*
Net banking income	765	+3.8%	2,975	+3.7%	+2.0%
Operating expenses	(484)	(2.2%)	(1,951)	+0.6%	+4.5%
Gross operating income	281	+16.0%	1,024	+10.3%	(1.7%)
Cost of risk	(309)	+12.0%	(1,444)	+32.6%	(2.4%)
Operating income	(28)	(16.3%)	(420)	x2.6	(1.0%)
Equity affiliates	(4)	nm	108	(25.2%)	(25.7%)
Net income on other assets and changes in the value of goodwill	(20)	nm	(437)	(81.2%)	nm
Pre-tax income	(52)	nm	(749)	+64.4%	(11.3%)
Tax	(35)	+54.2%	(183)	+4.3%	+7.9%
Net income (after tax) from discontinued activities	12	nm	21	nm	nm
Net income – Group share	(90)	nm	(928)	(71.5%)	(43.4%)

* エンポリキを除く

2010年のエンポリキを除く銀行業務純利益は、2.0%増となりました。これは、特に2010年はイタリア経済におけるより厳しい状況下でスタートしたものの、その後の拠点網が健全に運営されたことを反映しています。カリパルマの銀行純利益は、第2四半期以降順調に増加し、前年同期比でほぼ同水準となりました(-0.4%)。2010年の営業費用の4.5%の増加は、支店のネットワークのための投資を反映しています。2010年のリスク関連費用は2.4%減少し、第4四半期では、前年同期比で16.6%の大幅減となりました。更に、第4四半期の当事業部門は、セルビアでの営業権減損費用が発生し、関連会社の寄与分は減少しました。全体では純利益グループ帰属分は、エンポリキを除いて2億7,200万ユーロの黒字となりました。

イタリアでは、第4四半期にカリパルマ・グループが引き続き堅調な伸びを見せ、厳しい経済状況が続いたにも拘わらず、収益性を維持することができました。2010年度の顧客資産及び貸付残高の伸びは、市場平均を上回る結果となりました¹。当事業の推進力により、2010年第4四半期の銀行業務純利益は前年同期比で4.8%増の3億7,200万ユーロに達しました。

第4四半期の営業費用は、カリベズィア (Carispezia) の初期統合関連費用とインテサ・サンパオロ (Intesa Sanpaolo) からの新支店の買収費用のために悪影響を受けました。これらの統合費用を除いた営業費用は、ほぼ横ばいで安定しました(第4四半期同期比で0.6%の増加)。2010年度は、カリパルマのコスト比率は、57.5%となり、同年のBanca Finanzaのランキングで再び第1位となりました(当ランキングは安定性、収益性、生産性を基準としています)。

全体では、カリパルマは2010年度の純利益グループ帰属分で、第4四半期の4,500万ユーロを含む1億6,400万ユーロを寄与しました。

¹ 出典：Prometeia – 銀行貸借対照表予測

ギリシアでは、エンポリキの営業収益性が顕著に改善しました。第4四半期の営業総利益は前年同期比で4.3倍に伸び、7,100万ユーロに達しました。この極めて良好な傾向は、金利差益が回復した結果、第4四半期の銀行純利益が前年同期比で7.0%大幅増加したことによるものです。業務再編及び発展プランの更新を着実に果たすため、エンポリキは、厳格な費用抑制方針を導入しました。その結果、第4四半期は前年同期比で24.7%費用が削減されました。全体では、事業再編費用を除いた2010年第4四半期のエンポリキのコスト比率は、前年同期比で20.5%減少し、64.2%となりました。

2010年第4四半期のリスク関連費用は、1億9,400万ユーロとなり、第3四半期に比べて改善しました。リスク関連費用は、ローンの経過年数の長いローンに集中しました。新規ローンの健全性は確認されています。更に、要管理債権に分類されるローンは減少しました。

全体では、エンポリキの純利益グループ帰属分に対する寄与は、2010年第4四半期が、1億1,100万ユーロでした。2010年度のエンポリキの純利益帰属分に対する寄与は、ギリシア経済の悪化を踏まえた業務再編及び発展プランをアップデートした、第2四半期に計上分の営業権減損費用4億1,800万ユーロを含めて、-12億ユーロとなりました。

3. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q4-10	Change Q4/Q4	2010	Change 2010/2009
Net banking income	1,001	+2.6%	3,945	+7.2%
Operating expenses	(441)	(0.3%)	(1,734)	+1.7%
Gross operating income	560	+5.1%	2,211	+12.0%
Cost of risk	(314)	(26.3%)	(1,298)	(1.7%)
Operating income	246	x2.3	913	+39.5%
Equity affiliates	3	(30.4%)	12	+26.3%
Pre-tax income	249	x2.2	925	+39.1%
Net income – Group share	149	(1.1%)	536	+17.2%

4. 資産運用、保険、プライベート・バンキング

(in millions of euros)	Q4-10 *	Change Q4/Q4 **	2010 *	Change 2010/2009 **
Net banking income	1,223	+9.2%	4,970	+12.4%
Operating expenses	(596)	(5.0%)	(2,476)	+4.7%
of which restructuring costs	(10)	x2.9	(81)	nm
Gross operating income	627	+27.1%	2,494	+21.4%
Cost of risk	(12)	x3.5	(25)	+78.8%
Operating income	615	+25.6%	2,469	+21.0%
Equity affiliates	2	+92.3%	3	(5.6%)
Pre-tax income	610	+24.3%	2,464	+20.6%
Net income – Group share	375	+6.6%	1,509	+12.3%

(*) 同一条件の下でのBTFの資産運用事業を含みます。

(**)2009年の数値は、BTF銀行(BTF)からコーポレート・センターへの移管を修正表示してあります。

5. CA-CIB

CA-CIBは、全体で4期連続して収益を上げました。2010年度の継続事業の純利益グループ帰属分は、15億5000万ユーロとなり、2008年の業務再編及び発展プランで設定された目標値を10億ユーロも超える結果となりました。

第4四半期の継続事業は着実な収益を計上し、純利益グループ帰属分は、社債発行とローン・ヘッジの再評価による修正後で3億7,400万ユーロに達しました。これはファイナンス事業の収益が引き続き高かったことと、これとは逆に複雑なマーケット環境が長引く中で、債券関連の業績が相対的に弱かったことを反映しています。2010年度期首からの傾向を維持して、リスク関連費用は1,600万ユーロ減少し、良好な結果となりました。非継続事業の損失は引き続き減少し、第4四半期の費用は9,100万ユーロ(グループ帰属分)に抑えられました。最後に、営業費用は第3四半期よりも増加しましたが、これは主に社員に対する様々な新規繰り延べ賞与の計上によるものです。2010年度は、継続事業のコスト比率が60%以下で維持されました。

(in millions of euros)	Q4-10 Ongoing activities	Q4-10 Ongoing activities*	Change Q4*/Q4* Ongoing activities	2010 Ongoing activities	2010 Ongoing activities*	Change 2010/2009* Ongoing activities
Net banking income	1,323	1,354	(4.6%)	5,689	5,738	(10.7%)
Operating expenses	(915)	(915)	+16.6%	(3,399)	(3,399)	+11.2%
Gross operating income	408	439	(30.8%)	2,290	2,339	(30.6%)
Cost of risk	16	16	nm	(283)	(283)	(72.6%)
Net income – Group share	354	374	+7.2%	1,520	1,552	(10.8%)
Cost/income ratio				59.7%	59.2%	

* 社債発行及びローン・ヘッジの再評価による修正後

ファイナンス事業

(in millions of euros)	Q4-10	Change Q4/Q4	2010	Change 2010/2009
Net banking income	738	+27.2%	2,703	+35.1%
Operating expenses	(219)	+8.4%	(850)	+4.6%
Gross operating income	519	+37.2%	1,853	+56.0%
Cost of risk	25	nm	(164)	(82.5%)
Operating income	544	x2.8	1,689	x6.7
Equity affiliates	35	x2.5	138	+17.9%
Net income on other assets	(7)	nm	(6)	nm
Pre-tax income	572	x2.7	1,821	x4.9
Tax	(123)	x3.1	(466)	x6.6
Net income	449	x2.6	1,355	x4.5

2010年度は、ローン・ヘッジのアクティブ運用によりローン・ポートフォリオのボラティリティが著しく減少し、その影響度はさほど重要でないレベルまで低下しました。銀行業務純利益に対する影響額は 2009年度の- 4億

2,000万ユーロに比べ2010年度が^{*} 1,600万ユーロとなり、2009年第4四半期の^{*} 5,200万ユーロに比べて2010年度第4四半期は600万ユーロでした。

ファイナンス事業は、前期までと同じ傾向をたどり、事業が高水準を維持したため、2010年第4四半期は再び優れた業績結果を達成しました。ローン・ヘッジの再評価後の銀行業務純利益は2009年第4四半期比で15.8%増加しました。純利益は、同年同期比で2.6倍増加し、4億4,900万ユーロに達しました。2010年度では、純利益は13億5,500万ユーロと2009年度の4.5倍に達しました。

ストラクチャード・ファイナンスの収益は2010年第3四半期に記録的な結果を達成しましたが、第4四半期も安定して高水準となりました。2009年第4四半期比で15%増加しました。クレディ・アグリコルCIBは、企業買収ファイナンス、航空機ファイナンスで再び良好な業績を達成しました。航空機ファイナンスにおいては、クレディ・アグリコルCIBは、「エアークラフト・ファイナンス・ハウス・オブ・ザ・イヤー」に、同賞の創設以来5年連続で選ばれています。（出典：Jane's Transport Finance）

商業銀行部門の運営は回復力を見せ、クレディ・アグリコルCIBはシンジケーションでは圧倒的上位を維持しました。フランスでは13.5%のマーケット・シェアを確保し、シンジケーション・ビジネスでは3位から1位に上昇しました。

2010年度中継続してきたリスク関連費用の低下傾向を反映して、第4四半期のリスク関連費用は2,500万ユーロの戻し入れとなりました。2010年度では、要注意先のセクターならびに取引先企業の景況改善を反映して82.5%減少しました。引当金は、2009年12月31日現在の16億ユーロに対し、2010年12月31日現在でおよそ14億ユーロとなりました。

資本市場部門及び投資銀行部門

(in millions of euros)	Q4-10	Change Q4/Q4	2010	Change 2010/2009
Net banking income	585*	(8.0%)	2,986	(14.7%)
Operating expenses	(696)	+19.4%	(2,549)	+13.6%
Gross operating income	(111)	nm	437	(65.3%)
Cost of risk	(9)	(25.0%)	(119)	+24.0%
Operating income	(120)	nm	318	(72.6%)
Equity affiliates	-	nm	1	nm
Net income on other assets	-	nm	-	nm
Pre-tax income	(120)	nm	319	(72.7%)
Tax	35	nm	(104)	(65.4%)
Net income	(85)	nm	215	(75.4%)

^{*}2010 年第4 四半期の純利益は、コラテラル付スワップの評価額の変動から生ずる1 億2,000 万ユーロを含んでいます。

2010 年は極めて困難で不安定なマーケット状況が続く中、同年第4 四半期の資本市場及び投資銀行部門の収益は 8.0%減、同年度の収益は 14.7%減となりました。

債券関連部門では、第4四半期の営業収益は第3四半期とほぼ同じでした。この比較的安定した状態は、主に証券化業務、資金取引及び外国為替取引などによるものであり、これらは良好な水準を維持しました。一方で、債券取引はマーケットの他の事業同様、低迷しました。

株式部門は、第4四半期の収益が前年同期比で11%増加し、第3四半期の低迷後、持ち直す結果となりました。2010年度は、当事業部門の収益は15億ユーロと安定しました。ブローカレッジ業務は欧州のマーケットの長引く低迷による出来高の減少に悪影響を受けました。CLSAは、引き続き急速に拡大するアジアのマーケットに支えられ、目覚ましい好業績を達成しました。2010年度のCLSAは、現地の取引先が、株式のブローカレッジ・マーケットの9.5%シェアを占め、アジアの証券業務で主導的立場となりました(出典: グリニッチ・アソーシエーツ)。当グループは、CITIC証券と独占的交渉を進め、この交渉期限は2011年6月30日まで延長されました。第4四半期は投資銀行部門も再び良好な業績結果を達成しました。2010年度は、クレディ・アグリコルCIB株式の市場関連業務のランキングは、フランス国内で第2位となりました(出典: トムソン・ファイナンシャル)。

2010年の第4四半期は、困難なマーケット状況が長引いたにも拘わらず、継続事業のVaR(最大損失予想額)は、慎重なマーケット・リスク管理方針を反映して過去数年間に渡って低水準に抑えられています。

非継続事業

(in millions of euros)	Q4-10	Change Q4/Q4	2010	Change 2010/2009
Net banking income	(76)	(72.0%)	(374)	(72.2%)
Operating expenses	(29)	(12.1%)	(108)	(12.9%)
Gross operating income	(105)	(65.5%)	(482)	(67.2%)
Cost of risk	(32)	(85.6%)	(340)	(53.9%)
Pre-tax income	(137)	(74.0%)	(822)	(62.8%)
Tax	44	(76.2%)	265	(63.1%)
Net income	(93)	(72.7%)	(557)	(62.6%)

ポートフォリオの積極的管理を継続する中で、クレディ・アグリコル CIB は非継続事業の損失を更に削減することができました。2010年の第4四半期は9,300万ユーロとなり(前年同期比72.7%減)、2010年度は5億5,700万ユーロ(前年同期比62.6%減)となりました。第4四半期のエキゾチック・エクイティ・デリバティブからの影響は軽微で、2010年度通年では僅かながらプラスとなりました。

2010年第4四半期のCDO、CLO、ABSのポートフォリオに関しては、自己取引勘定と銀行勘定の評価基準の改訂は大きな影響をもたらすものではありませんでした。CDE、ABS、CLOポートフォリオの銀行業務純利益は2009年第4四半期の-3億7,800万ユーロに対して、2010年の第4四半期は-4,700万ユーロに達しました。2010年度の銀行業務純利益は、2009年度の-11億ユーロに対して、-2億6,800万ユーロとなりました。残存するエクスポージャーは引き続きよりアクティブな管理が行われました(リストラクチャリングや売却等)。

コリレーション・ポートフォリオにおけるリスクパターンとその管理は、2009年6月に導入された安定化プランに沿ったものでした。

最後に、2008年10月に行われた金融資産のローンと債券への再分類により、2010年第4四半期に5,500万ユーロの税引き前利益が相殺されました。

6. コーポレート・センター

(in millions of euros)	Q4-10	Change Q4/Q4*	2010	Change 2010/2009*
Net banking income	(404)	+70.2%	(1,035)	+77.2%
Operating expenses	(304)	+81.8%	(930)	+19.6%
Gross operating income	(708)	+75.0%	(1,965)	+44.3%
Cost of risk	(11)	(66.9%)	(28)	(58.5%)
Operating income	(719)	+64.4%	(1,993)	+39.3%
Equity affiliates	(1,259)	nm	(1,154)	x4.7
Net income on other assets	1	nm	(169)	nm
Pre-tax income	(1,977)	x4.5	(3,316)	+98.4%
Net income – Group share	(1,424)	x4.6	(2,457)	x2.0

*2009年の数値は、BTF銀行(BTF)からコーポレート・センターへの移管を修正表示してあります。

2010年の第4四半期のコーポレート・センターの業績結果は、2つの例外項目から重大な影響を受けました: それらの例外項目とは、インテサ・サンパオロの株式持ち分を連結から外したこと(関連会社の利益に対するマイナス影響額12.4億ユーロ)と、生命保険契約の資産移転譲渡税(exit tax)を会計処理で認識したことです(法人税に対するプラスの影響額4億ユーロ)。全体では、コーポレート・センターの純利益グループ帰属分は14億ユーロの損失となりました。

会計年度ごとに異なる例外項目があるため、業績結果を2期だけで容易に比較することはできません。

2009年の銀行業務純利益では、社債償還差益2億1,800万ユーロが含まれていました。一方、インテサ・サンパオロの株式持ち分を初めて連結したことにより2億1,200万ユーロの関連会社の損失が発生しました。

2010年は、第4四半期の上記のオペレーションに加えて、クレディ・アグリコルSAはインテサ・サンパオロとの合意のもと、イタリアの銀行の株の一部を売却しました。これによって、その他の資産に対する純利益部分において、1億7,100万ユーロの損失が認識されました。2010年は、エバーグリーン・プロジェクト(グループ移転プロジェクト)や、シャルトル・データ・センター並びにニース・ITプロジェクトを含んだ部門個別費を計上した結果、営業費用が19.6%増加しました。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

2010年のクレディ・アグリコル・グループの銀行業務純利益は、2009年比9.3%増の342億ユーロに達しました。営業費用は、連結範囲の変更による著しい影響とリストラクチャリング費用を反映して、6.1%に抑えられました。営業総利益は、14.6%増と大幅に増加し134億ユーロに達しました。これはフランスのリテール・バンキング、特に地域銀行、資産運用、保険、プライベート・バンキングの着実な業績を反映しています。

リスク関連費用は、フランスのリテール・バンキング、ファイナンス事業のリスク関連費用の減少傾向により、またそれらの事業部門よりも減少程度は小さかったものの専門金融サービス部門でのリスク関連費用の減少によって、19.9%低下しました。この減少は、ギリシャのエンポリキのための引当金増加を十分に相殺することができました。

関連会社からの利益では、その他の資産と営業権価額の変動に関する純利益が、例外的な項目によって著しい影響を受けました。インテサ・サンパオロSpAの株式持ち分を連結から外したこと、インテサ・サンパオロの株式持ち分の0.8%の売却損、並びにエンポリキの営業権減損費用(2010年の第2四半期に4億4,500万ユーロ)がそれらの項目です。こうした例外的項目にも拘わらず、純利益グループ帰属分は、36億1,100万ユーロとなり、2009年比31.5%増という結果と生むことができました。

€m	2010	Δ 10/09	Q4-10	Δ Q4/Q4
Net banking income	34,206	+9.3%	8,454	+5.8%
Operating expenses	(20,849)	+6.1%	(5,427)	+5.0%
Gross operating income	13,357	+14.6%	3,027	+7.3%
Cost of risk	(5,191)	(19.9%)	(1,064)	(39.1%)
Operating income	8,166	+57.9%	1,963	+83.1%
Equity affiliates	(900)	nm	(1,225)	nm
Net income on other assets	(181)	nm	(13)	nm
Change in the value of goodwill	(477)	(9.5%)	(31)	nm
Pre-tax income	6,608	+41.1%	694	(38.0%)
Tax	(2,538)	+43.1%	(276)	x2.5
Net income	4,091	+33.3%	430	(59.7%)
Net income - Group share	3,611	+31.5%	312	(67.4%)

クレディ・アグリコルSAの2010年の第4四半期の財務情報は、当プレスリリースと添付プレゼンテーションから構成されています。全ての情報規制は、登録情報も含めて、www.credit-agricole.com/en/Finance-and-Shareholders の“財務情報”で入手することが可能です。これらの情報は、フランス金融市場監督庁の定める51-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq. of the AMF General Regulationの規定に従って、クレディ・アグリコルSAにより公開されています。

Investor relations +33 (0) 1 43 23 04 31			
Denis Kleiber	+ 33 (0) 1 43 23 26 78		
Nathalie Auzenat	+ 33 (0) 1 57 72 37 81	Fabienne Heures	+ 33 (0) 1 43 23 06 38
Colette Canciani	+ 33 (0) 1 57 72 38 63	Marie-Agnès Huguenin	+ 33 (0) 1 43 23 15 99
Sébastien Chavane	+ 33 (0) 1 57 72 23 46	Auréli Marboeuf	+ 33 (0) 1 57 72 38 05

Disclaimer

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts under the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, § 10). This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections. Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset depreciation. Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement. Review procedures on consolidated financial statements are being conducted by statutory auditors.

Applicable standards and comparability

The figures in this document have been drawn up in accordance with the IFRS accounting standards adopted by the European Union.